

次世代型人材育成計画アクションプラン(中間評価後改定版)

		アクション・プラン																
取組事項(内容)	改革の方向性	工程表																
		平成29年度				平成30年度				平成31年度(令和元年度)	令和2年度				令和3年度			
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
英語教育の充実	【全】 【イ】 「千葉大学における英語教育の目的」に基づき、学術英語を修得することを目的として、大学院共通教育において英語科目を実施する。	平成31年度本実施に向けた大学院共通教育における英語科目の検討 ・実施体制・実施計画 ・授業科目・事務体制 等				試行の検討と実施 / 試行の検証				科目の実施 / 以後、検証・改善を適宜行う								
		英語学修の推進に寄与するサービス導入の検討				Grammarly(英文添削サービス)の導入				FINANCIAL TIMES、Nikkei Asian Review(英文メディア購読サービス)の導入				各種サービスの継続 / 以後、サービスの継続について適宜検討を行う				
教育内容・方法に関する改革	【イ】 【ア】 教育の国際化を推進するため、二言語併用授業科目の拡充も含めた英語による授業の推進、高機能TAを活用したアクティブラーニングの拡充、海外の有力な教育研究機関や研究の要素を有する国際機関による教育プログラムの実施・検討、学生の学修意欲を刺激するため、世界的に有名な研究者が日本に滞在する間を利用した特別講義の充実を行う。	英語による授業科目の制度設計 ・新任教員の英語による授業科目の担当 ・二言語併用授業科目の拡充 等				英語による授業科目の実施 / 以後、検証・改善を適宜行う												
		大学院共通教育平成31年度本実施に向けた検討 ・方針・実施体制・実施計画 ・カリキュラム(体系性、連続性等) ・授業科目・事務体制 等				試行の実施 / 試行の検証				科目の実施 / 以後、検証・改善を適宜行う				大学院共通教育の実施と合わせてTFを活用したアクティブラーニングを拡充				
		千葉大学におけるティーチングフェロー制度(TF)の検討 ・他大学の導入事例確認・既存TAとの関係整理・規程検討				特別講義の計画・実施				特別講義の計画・実施				特別講義の計画・実施				
		特別講義の計画・実施				特別講義の計画・実施				特別講義の計画・実施				特別講義の計画・実施				
		特別講義の計画・実施				特別講義の計画・実施				特別講義の計画・実施				特別講義の計画・実施				

※「取組事項」には担当するセンター名等を付している。基幹全体に関わる事項:【基】、イノベーション教育センター:【イ】、全学教育センター:【全】、国際教育センター:【国】、学生支援センター:【学】、キャリアセンター:【キ】、入試センター:【入】、高大接続センター:【高】、地域連携教育センター:【地】、アカデミック・リンク・センター:【ア】

3. 学士課程から大学院課程を通じた教育改革

次世代型人材育成のための全学的な教学マネジメントの整備、教育に関する継続的な評価システムの確立	【基】	平成28年度に策定した「次世代型人材育成計画(Garnet Plan)」に基づく教学改善を自律的・継続的に進めるための「PDCAサイクル」の内部質保証システム構築に向けて、「国際未来教育基幹」の更なる機能強化に向けた組織体制のあり方について検討する。	評価システムの検討	教学マネジメント体制の検討	教学マネジメント体制の整備・進捗管理	各センターによる自己点検・中間評価	外部評価(中間評価)	中間評価を踏まえた見直し	中間評価に基づく改善対応の検討	改善対応のフィードバック	第4期中期目標期間に向けた見直し	【令和4年度】各センターによる自己点検・最終評価
3ポリシーの継続的見直し	【イ】 【入】	平成29年4月1日付で改訂するディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを継続的に見直すとともに、カリキュラムマップの導入とナンバリングの大学院博士後期課程への拡充を図る。	見直し後の3ポリシー公表	3ポリシーの適宜見直し	ENGINE実施に伴うDP及びCPの全学的な見直し	調整	公表 / 以後、適宜見直し	アドミッションポリシーの検証・見直し(以後毎年)	公表 / 以後、適宜見直し	カリキュラムマップのモデルの策定	各学部においてカリキュラムマップ策定	公表 / 以後、適宜見直し
ラーニングポートフォリオの導入	【イ】	現在キャリアポートフォリオにおいて部分的に実現されているラーニングポートフォリオを全面的に導入することによって、学生の学修過程の視覚化と教員とのインタラクティブな学修指導を実現する。	導入検討	システムの検討 ・製品検討 ・業者ヒアリング	試行 ・国際教養学部における試行の実施	試行検証	以後、段階的に導入					
スマートラーニングの実施	【イ】 【ア】	留学や授業外学修の促進を図るべく、多様なメディアを高度に活用することにより、時間や場所が限定されずに授業の学修が可能となる教育環境を整備する。	導入検討		実施に向けた整備 ・スマートラーニング実施に関する基本方針の作成 ・実施目標の作成(科目数) ・メディア授業に関する要項の作成 ・千葉大学メディア授業実施ガイドの作成 ・推進担当組織(スマートオフィス)の設置計画の策定 ・実施に伴う各部署への支援の検討	メディア授業のコンテンツ作成に必要な環境整備 ・メディア授業の実施に伴い配置するTAの経費の配分方法の検討・策定 / 検証・改善 ・メディア授業科目の実施を促進						

次世代型人材育成計画アクションプラン(中間評価後改定版)

		アクション・プラン																	
取組事項(内容)	改革の方向性	工程表																	
		平成29年度				平成30年度				平成31年度(令和元年度)		令和2年度				令和3年度			
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月			4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
学部・大学院の接続	【イ】 成績優秀な学部生が大学院の授業を履修できる条件と仕組みを整え、高度で効率的な教育課程を提供する。	→				→				→		→				→			
		制度検討 ・他大学の事例等検討				制度設計 ・履修条件 ・科目選定ルール ・履修上限単位				制度決定 「千葉大学学部学生による大学院授業科目の履修について」		試行実施/試行の検証 ・大学院共通教育科目				本実施 / 以後、検証・改善を適宜行う			
										周知 ・全学HPへの掲載 ・学部履修案内への掲載									
外国人留学生の組織的な受入れ	【国】 優秀な外国人留学生の組織的な受入れに関する総合的な支援体制を強化する。	→				→				→		→				→			
		・学生の交流情報の一元化(協定管理・国際広報等)体制の見直しと広報活動の改善				・学生の交流情報の一元化(協定管理・国際広報等)新体制の構築と試行				・学生交流協定のアップデートと派遣受入れ情報の一元的管理体制を構築し、これを踏まえた国際広報活動を展開する		・全学的に学生交流協定の戦略的な締結・更新を推進し、国際広報活動による派遣受入れの円滑化を図る				・体制等の見直し・改善を行い、学生交流情報の一元管理による派遣受入れ支援の促進を図る			
		・各種受入れプログラムの総合的な情報提供 各種受入れプログラム情報提供の課題検証				・各種受入れプログラムの総合的な情報提供 総合的な情報提供策の立案と試行				・各種受入れプログラムの総合的な情報提供を展開する		・各種受入れプログラムの総合的な情報提供の展開をさらに促進する				・見直し改善を行い、留学生の受入れ増加に資する情報発信を行う			
		・留学生の教育支援(日本語を含む需要にマッチしたプログラムの充実) 留学生教育支援の課題検証・需要調査				・日本語を含む受入れプログラムの改善策及びプログラム充実策の検討・立案				・日本語を含む受入れプログラムの充実策を実施する		・日本語を含む受入れプログラムの充実策の展開を促進する				・日本語を含む受入れプログラムの施策の見直し・改善により留学生の学習・生活支援を充実させる			
		・危機管理(感染症予防を含む)体制の整備に向けた検討				・危機管理(感染症予防を含む)体制の整備に向けた検討				・危機管理(感染症予防を含む)体制の整備に向けた検討		・危機管理(感染症予防を含む)体制の整備状況の点検を行う				・危機管理(感染症予防を含む)体制整備を改善し、リスク軽減と管理体制の強化を図る			
		・日本学生支援機構や民間、大学独自の奨学金等の活用 各種奨学金等支援体制の課題検証				改善策の検討				・各種奨学金等活用方法の改善策を実施する		・各種奨学金等支援体制を必要に応じて改善				・各種奨学金等支援体制を必要に応じて改善			
日本人学生の留学促進	【国】 「全員留学」の実施に向け、日本人学生の海外留学に関する総合的な支援体制の強化や留学プログラムの充実化を図る。	→				→				→		→				→			
		・学生の交流情報の一元化(システム活用) 留学情報システム活用策の検討・課題の検証				・学生の交流情報の一元化(システム活用)活用策の実施				・学生の留学情報を一元的に管理するための「留学管理システム」の導入に向けて検討		・留学管理システム導入準備				・留学管理システム稼働			
		・各種派遣プログラムの総合的な情報提供 各種派遣プログラム情報提供の課題検証				・各種派遣プログラムの総合的な情報提供 総合的な情報提供策の検討				・「全員留学」に向けた派遣プログラムの総合的な情報提供策を引き続き検討		・新設する「留学支援センター」と連携し留学推進・支援体制強化に向けて検討				・新設する「留学支援センター」と連携し留学推進・支援体制強化に向けて継続的に検討			
		・事前事後指導の徹底 事前事後指導の課題検証				・事前事後指導の徹底 事前事後指導の改善と試行				・事前事後指導の徹底を促進する		・事前事後指導の必要に応じた改善				・事前事後指導の徹底により充実した留学を促進			
		・危機管理体制の整備 危機管理体制の課題検証				・危機管理体制の整備に向けた検討				・個別及び全学的な危機管理体制の整備		・危機管理体制を必要に応じて改善							
		・日本学生支援機構や民間、大学独自の奨学金等の活用 各種奨学金等支援体制の課題検証				改善策の検討				・各種奨学金等活用方法の改善策を実施する		・各種奨学金等支援体制を必要に応じて改善							
デジタル・スカラシップ機能の実現	【ア】 アクティブ・ラーニングの推進のために、アカデミック・リンク・センターで提供してきた教材開発、教材提供の機能を再編・強化するとともに、研究成果をダイレクトに教育に活かす基盤として「デジタル・スカラシップ」を構築・運営するための次世代型デジタルプラットフォームの開発を行う。	→				→				→		→				→			
		プラットフォームの全体像構築				研究成果のデジタル・アーカイビング環境構築				プラットフォーム本格運用		プラットフォームの最適化に向けた機能評価				プラットフォームの改善と機能強化			
						デジタル研究資源・研究成果のメタデータ設計開発				デジタル研究資源・研究成果の利活用に向けたメタデータの実装およびデジタル研究資源の収集・加工や研究成果の電子出版を含む利活用		デジタル研究資源・研究成果の利活用に向けたメタデータの整備				デジタル研究資源・研究成果利活用の活性化			
リサーチコモンズの実現	【ア】 ・アクティブ・ラーニング・スペースの機能を強化し、学士課程から大学院課程を通じた学際的でオープンな知的交流の場として「リサーチコモンズ」を整備する。 ・国際的な動向を踏まえ、分野横断的な大学院生支援プログラムを企画、立案し、継続的に提供する。 ・リサーチコモンズ機能の全学展開に向けて、特に松戸キャンパスの学習環境の整備について検討・最適化を行う。	→				→				→		→				→			
		国際的動向の調査・分析				リサーチコモンズ本格運用およびリサーチコモンズにおけるプログラム作成				大学院生支援プログラムの実施およびリサーチコモンズの評価		リサーチコモンズとプログラム支援機能を技術や環境の変化にあわせて最適化する				リサーチコモンズとプログラム支援機能の継続的な強化を図る			
		松戸キャンパスリサーチコモンズの検討								松戸キャンパスリサーチコモンズの運用開始		松戸キャンパスリサーチコモンズにおける機能の最適化				松戸キャンパスリサーチコモンズの継続的な強化を図る			

次世代型人材育成計画アクションプラン(中間評価後改定版)

		アクション・プラン																								
取組事項(内容)	改革の方向性	工程表																								
		平成29年度				平成30年度				平成31年度(令和元年度)	令和2年度				令和3年度											
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月												
IR・FD・SD連携	【ア】 ・教育IR機能の強化及びFD・SD体制の集約化により活動の効率化を実現する。 ・教育及び研究に係るIRの連携を図り、その成果を反映したFD・SDを企画、実施する。 ・学内の各種データの教育IRでの活用により、教育・研究に関する中長期的な方針の立案に貢献する。					教育IRと研究IRとの連携検討試行					教育IRと研究IRとの連携開始					IRの成果を反映したFD、SDの企画試行					IRの成果を反映したFD、SDの実施					技術や環境の変化にあわせてIR、FD、SD機能を最適化し、研究・開発と実践の循環による継続的な強化を図る
						最新の研究動向を踏まえた教育IRの企画、実施					教育IRの成果を踏まえて新たなFD、SDの企画、実施					教育共同利用拠点を活用した教育・学修支援専門職の養成開始					教育共同利用拠点を活用した教育・学修支援専門職の養成継続					
						ラーニングマネジメントシステムのデータ活用の検討					データを活用した教育IRの実施															

※「取組事項」には担当するセンター名等を付している。基幹全体に関わる事項:【基】、イノベーション教育センター:【イ】、全学教育センター:【全】、国際教育センター:【国】、学生支援センター:【学】、キャリアセンター:【キ】、入試センター:【入】、高大接続センター:【高】、地域連携教育センター:【地】、アカデミック・リンク・センター:【ア】

4. 入試改革及び学修・学生支援に関する改革																												
学部の特色ある入試の実施	【入】 【高】 学生の多様なニーズに対応した入試の検討・導入					特色ある入試の実施 工学部・AO入試実施・拡充検討 園芸学部・AO入試実施					法政経学部・AO入試実施 理学部・AO入試の導入を検討 工学部・AO入試拡充実施					学生の多様なニーズに対応した入試の検討・導入					理学部・AO入試導入・拡充検討 工学部・AO入試拡充実施					AO入試の拡充を検討		
						園芸学部・先進科学プログラム(植物生命科学関連分野)実施					理学部・先進科学プログラム(生物学関連分野)実施					工学部・先進科学プログラム(方式I)拡充												
										高大連携プログラムを活用した入試制度の検討																		
高大接続改革	【高】 【入】 ・早修制度の検討・導入 ・高大接続機能の強化									早修制度の検討・導入 ◆高大連携開放授業をはじめとする単位化の検討、制度整備 ◆早修制度導入に向けた教育プログラムの検討																		
										高大連携プログラムの充実・拡充に向けた検討・導入 ◆高大連携開放授業:留学等の学外活動を含めた普通教育科目の拡充、3T、6Tを利用した拡充の検討、専門教育科目導入の検討 ◆「次世代才能スキップ・アップ」プログラム終了後の実施体制等の検討					SSH(高大接続枠)を実施(対象:高1)				SSH(高大接続枠)を実施(対象:高1・高2)				SSH(高大接続枠)を実施(対象:高1~高3)					
										◆高校及び県教育委員会との連携強化(県内SSH校との連携プログラムの検討、出張講義の推進、高大接続に係るカリキュラム開発の実施・支援)																		
資格・検定試験等の活用	【入】 外部検定試験を活用した入試の検討・導入					外部検定試験を活用した入試の実施 教育、園芸、看護の各学部で新たに実施					文、理、工、医、薬の各学部で導入を検討					外部検定試験を活用した入試の検討・導入					文学部の一部のコース、理学部の一部の学科で、新たに実施					個別学力検査(前期日程)において、文学部の一部及び医学部を除く9学部で、外国語検定試験を活用した選抜を導入・実施		
外国人留学生を選抜するための多様な入試等の推進	【入】 外国人留学生を選抜するための多様な入試等の推進のため、各学部・研究科(学府)と連携し、実施促進体制を構築する。					大学院における渡日前入試の実施									海外入試等実施情報の集約及び課題検証を行う					海外入試等実施促進に結びつく課題検証及び改善策を検討し、海外入試を含む多様な入試を促進する					海外入試等を促進し、多様な入試の標準化を図る			
										海外入試等実施促進支援 海外入試実施の課題検証と情報集約及び施策の検討																		
										海外入試等促進体制の構築 実施促進体制の構築と試行																		

次世代型人材育成計画アクションプラン(中間評価後改定版)

		アクション・プラン																			
取組事項(内容)	改革の方向性	工程表																			
		平成29年度				平成30年度				令和2年度				令和3年度							
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月				
外国人留学生の支援体制の強化	【国】外国人留学生の学習環境、生活環境、健康管理等の面での支援体制を充実させる。	SDの充実 ISDの相談支援体制の課題検証				SDの充実 ISDの相談支援体制の改善と試行				留学生数の増加状況に併せISDの増員配置計画を検討し可能な場合は配置する				留学生数の増加状況に併せISDの増員配置計画を再検討し可能な場合は配置する							
		チューターによる支援体制の課題検証				チューターの活用 チューターの育成を含む支援体制の検討				チューターの育成を含む支援体制を試行する				チューターによる支援体制の点検を行い改善を図る				チューターによる支援体制を活用し教育・生活相談体制を強化する			
		住居の充実化に向けた取組の実施と必要に応じた改善				経済的支援の充実(渡日前奨学金申請登録制度等) 奨学金支援体制の課題検証				奨学金支援体制の更なる点検と改善を図る(渡日前奨学金申請登録制度等)				奨学金支援体制の改善により経済的支援の充実を図る(渡日前奨学金申請登録制度等)							
国際交流のための施設整備の推進	【国】留学生と日本人学生間の相互文化理解及び国際交流を進展させるべく、日本人との混住型の学生寮等を整備する。	既設の混住型学生寮の活用 外国人留学生の入居稼働率の促進				既設の混住型学生寮の活用を促進するとともに必要に応じて活用方法の改善を図る				既設の混住型学生寮の活用を促進するとともに必要に応じて活用方法の改善を図る				既設の混住型学生寮の活用を促進するとともに必要に応じて活用方法の改善を図る							
		国際交流会館の改修・利用の見直し 国際交流会館の利用者の要望に基づく改善				国際交流会館の改修・利用の見直し 国際交流会館の利用者の要望に基づく改善				国際交流会館の改修・利用の見直し 国際交流会館の利用者の要望に基づく改善 国際交流会館の運営のあり方について検討				国際交流会館の改修・利用の見直し 国際交流会館の利用者の要望に基づく改善 国際交流会館の効率的な運営に向けて可能な措置を講じる							
		ソーシャルラーニングポイント(認定)制度の整備・確立				ソーシャルラーニングの実践的かつ体験型の授業を設置				ソーシャルラーニングポイント(認定)制度の体制を構築する				ソーシャルラーニングポイント(認定)制度の実施及び検証・改善を図る							
ソーシャルラーニング実施状況の確認及び単位化に向けた方策の検討、学生ボランティアの戦略的な組織化(SA化)	【学】授業で得た知識を活かし、そこから具体的に実践的な学びを得て社会に貢献していくための体制を整える。	ソーシャルラーニングに関する授業を教養教育科目として設置				ソーシャルラーニングの実践的かつ体験型の授業を設置				ソーシャルラーニングの実践的かつ体験型授業の実施体制を整える				ソーシャルラーニングの実践的かつ体験型授業の拡充を図る							
		◆既存のボランティアセンターの組織強化 ◆センター主催のソーシャルラーニングに関するイベントの実施 ◆学生ボランティアのSA(スチューデント・アシスタント)としての機能強化 ◆学生によるピア・サポート・システムとしてのメンター制度の検討																			
学生相談体制の充実、障害のある学生の相談体制の充実	【学】学生に関するニーズを把握し、安全かつ健やかで豊かな学生生活の実現のため、相談、支援をきめ細かに実施できる体制を組織し、継続的に推進する。 ・障害のある学生の相談窓口として「障害学生支援室」を設置し、支援体制を強化する。	学生相談体制の整備 ◆修学・生活・進路等なんでも相談受付 ◆総合安全衛生管理機構・各部署との連携								外部電話相談サービス導入検討 相談カルテシステム導入検討				外部電話相談サービス導入実施 相談カルテシステム導入実施							
		障害学生の相談体制の整備 ◆随時:障害学生からの支援・配慮希望申請受付 ◆部局教職員との連携												障害学生支援関係HPの充実							
		バリアフリー化調査 オープンキャンパス対応				バリアフリーマップ作成 オープンキャンパス対応				バリアフリー化要請 オープンキャンパス対応				オープンキャンパス対応							
		サポート学生の養成 他大学等の状況調査												障害支援室設置要望申請							
						入学手続支援				入学手続支援				入学手続支援							

次世代型人材育成計画アクションプラン(中間評価後改定版)

		アクション・プラン																
取組事項(内容)	改革の方向性	工程表																
		平成29年度				平成30年度				平成31年度(令和元年度)	令和2年度				令和3年度			
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月				
実践的なキャリア教育の展開(普遍科目、正課内・外インターンシップ)、相談・支援体制の充実	【キ】 机上学習に加えキャリア形成の多様性を 実務実習で学ぶ授業科目の設置、現場実習などを通じて大学で学んだ教養や専門知識を 実社会で活かす方策を実践的に考える インターンシップの開発など、実践的なキャリア教育を導入する。	実践的なキャリア教育の展開(普遍科目、正課内・外インターンシップ) 「実務家によるキャリアデザイン入門A」 講義T1 「実務家によるキャリアデザイン入門B」 講義T4 「地方創生の実務現場A」 講義T2 「地方創生の実務現場B」 講義T5 「実務家によるキャリアデザイン演習A」 演習T1-3 「実務家によるキャリアデザイン演習B」 演習T4-6 「地方創生の実務実習」 「地方創生の実務実習」 「千葉大学キャリアサポートインターンシップ」																
		相談・支援体制の充実 就職相談・就職ガイダンス、就職試験対策、資格試験等に関する情報提供 (進路ニーズ調査)																
高度な学習支援の実現	【ア】 学士課程から大学院課程までの学習・研究を支える高度な学習支援人材 「Research and Learning Advisor (アドバンスドSULA)」を含めた、各種の学習支援人材を育成・配置し、論文執筆支援等の個々の学生のニーズに即した支援を実施する。	RLA(アドバンスドSULA)育成コースの設計 RLA(アドバンスドSULA)育成コースの実施 RLA(アドバンスドSULA)本格稼働 ALSAIによる支援活動の継続的な運用・強化																
		RLA(アドバンスドSULA)を含む各種学習支援人材のチームによるチームワークによる支援の実現 技術や環境の変化にあわせて、支援機能を最適化し、研究・開発と実践の循環による継続的な強化を図る																
		《実践的なキャリア教育》 ・キャリア教育科目の充実 ・大学主導インターンシップ																
		《就職支援充実、就職率の向上》 ・就職活動・進路状況の検証 ・就職ガイダンス・就職相談 ・就職試験対策 ・講演会・セミナー																

※「取組事項」には担当するセンター名等を付している。基幹全体に関わる事項：【基】、イノベーション教育センター：【イ】、全学教育センター：【全】、国際教育センター：【国】、学生支援センター：【学】、キャリアセンター：【キ】、入試センター：【入】、高大接続センター：【高】、地域連携教育センター：【地】、アカデミック・リンク・センター：【ア】